

株 主 通 信

2016年4月1日～2017年3月31日

KITZ

株式会社 キッツ

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第103期株主通信をお届けし、当期の業績、2017年度の経営計画及び中長期の成長に向けた取り組みなどについてご報告いたします。

「第3期中期経営計画」の初年度である当期は、原油価格の低迷と中国経済の減速の他、円高の影響などもあり、特に海外市場においては厳しい状況で推移し減収となりましたが、グローバル調達、内製化、生産性向上等による製造コスト削減効果に加え、原材料価格が低位で推移したこと、さらに円高による海外生産品の仕入コストの減少もあって増益となり、2016年度経営計画の売上高・利益の数値目標を達成することができました。

キッツグループは、健全で透明性の高い経営と、グループの強みを活かしたバルブの製造・販売により、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長 堀田 康之



エミール・ガレ
《レンギョウに蝶文ランプ》

制作年：1900年代初頭
高さ：33.0cm

ピンク色のガラス地に金彩で網目状の線を描き、エナメル彩でレンギョウと蝶の装飾を施したランプ。ガレは多くの日本の植物を自邸の庭で栽培していた。レンギョウもそのうちの一つである。写実的で伸びやかに描かれた枝花に、この植物に寄せるガレの愛情が感じられる。

北澤美術館所蔵

2016年5月、キッツは、2020年度を最終年度とする長期経営計画「KITZ Global Vision2020」の数値目標の見直しを行うとともに、新たに「第3期中期経営計画(2016年度～2018年度)」を策定しました。その初年度にあたる2016年度の業績、第3期中期経営計画の進捗及び2017年度の経営計画などについて堀田社長に伺いました。



代表取締役社長 堀田 康之

当期の連結業績の概況

Q 当期は前期比減収となりました。

A バルブ事業及び伸銅品事業ともに減収

当期の連結売上高は、前期比31億77百万円減の1,141億1百万円となりました。バルブ事業は、国内市場では、既設プラントの定期修理案件への納入の増加や半導体製造設備向けの好調により増加したものの、海外市場において、原油価格の低迷による設備投資の抑制に加え、円高の影響などもあり、前期比18億12百万円減の917億66百万円となりました。

伸銅品事業は、売価に影響を与える原材料相場が前期と比較して下落した他、販売量の減少もあり、前期比12億24百万円減の193億33百万円となりました。その他(サービス関連の事業)についても、前期比1億39百万円減の30億2百万円となりました。

Q 一方で、営業利益は大幅に増加しました。

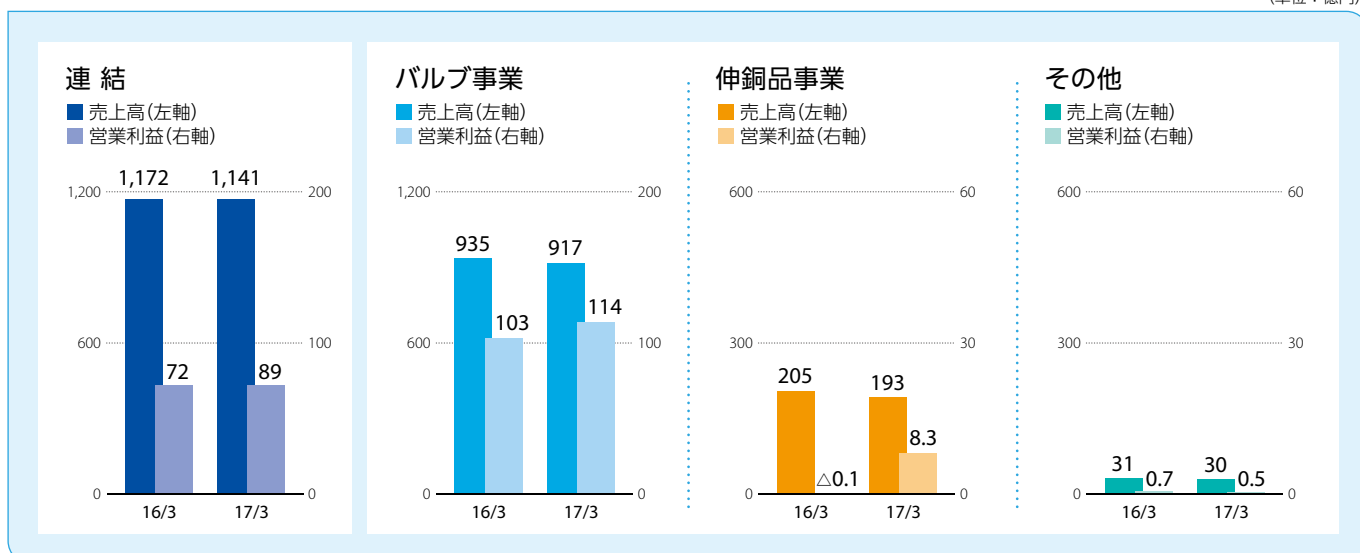
A バルブ事業が増益、伸銅品事業も黒字に転換

バルブ事業で、製造コスト削減効果に加え、原材料価格が低位で推移したこと、さらに円高による海外生産品の仕入コストの減少もあり、営業利益は前期比10億59百万円増の114億44百万円となりました。

伸銅品事業では、製造ライン改善による生産性向上に加え、原材料相場が安定的に推移し一定の利幅が確保できたことにより、8億31百万円となり、黒字に転換しました(前期は16百万円の営業損失)。その他では前期比15百万円の減益となりましたが、連結営業利益は、前期比16億83百万円増の89億29百万円、経常利益は、前期比14億98百万円増の87億99百万円となりました。

セグメント別売上高・営業利益

(単位：億円)



当期中において、政策保有株式の一部を売却し、20億97百万円の特別利益(投資有価証券売却益)を計上する一方で、財務内容の健全化を目的として、本社不動産に信託受益権を設定して、その受益権を第三者に譲渡したことなどに伴い、37億56百万円の特別損失(減損損失)を計上しました。さらに、法人税等において、2014年3月期に計上した移転価格税制に基づく調査による更正額7億16百万円について、日米相互協議の終了を受け、6億22百万円の還付を計上しました。これらの結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比4億84百万円増の54億円となりました。



第3期中期経営計画の進捗

Q 第3期中期経営計画の初年度が終了しました。数値目標に対してはいかがだったのでしょうか。

A 売上高・利益の数値目標を達成

中国経済の成長率鈍化が新興国経済にも大きな影響を及ぼしている一方、原油価格の下落により、エネルギー関連企業の設備投資が抑制されている状況は長期化するものと考えています。こうした世界経済の低迷により今後の事業環境の見通しは不透明であることから、第3期中期経営計画では、規模の拡大から確実な利益成長へとその方向を転換しました。

バルブ事業の国内向けでは厳しい状況の中、増収を確保することができたものの、海外市場においては苦戦を強いられました。また、伸銅品事業においては、原材料相場下落もあって売上高が減少したこともあり、連結合計では前期と比べて2.7%の減収となりましたが、先ほどご説明したとおり、営業利益については、製造コストの削減にグループを挙げて取り組み、大幅な増益を達成できたことから、第3期中期経営計画の売上高・利益の数値目標を、それぞれ上回る業績となりました。2020年度目標に掲げた、営業利益の最高益更新に向けて、よいスタートを切ることであったと思っています。

今期の経営計画

Q 今期の経営環境をどのように見ていらっしゃいますか。

A 海外市場は不透明な状況が継続

アジア・欧州には明るい兆しは見られません。北米においては、下期から、Oil & Gas市場やエネルギー関連市場に動きが出てくることを期待していますが、本格的な回復には少し時間がかかるよう

Q 主な戦略の進捗について教えてください。

A 中長期の成長に向けた施策を展開

エリア戦略として、2016年6月、アセアンの地域統括会社であるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.(シンガポール)がベトナム・ホーチミンに駐在員事務所を開設。また、同年8月、韓国・ソウルに販売法人KITZ Corporation of Koreaを設立するなど、各エリアでマーケティング機能の強化を推進しました。また、販売法人であるKITZ Corporation of Shanghai(中国)が新製品開発、生産、品質保証、技術サービス、物流サービスなどを行う複合機能拠点として分公司を設立するなど、海外拠点のさらなる充実を図っています。

フィルター(浄水器・精密フィルター)事業の競争力強化のため、韓国のフィルターメーカーFilcore Co., Ltd.をグループ会社とし、また、半導体分野向けにバルブ及び継手を製造・販売している株式会社キッツエスシーティーが、システム製品専用工場を新設するなど、成長市場に向けた施策を展開しました。

に思われます。

国内市場は、年度の後半から首都圏の建築設備向けの需要が上向いてきます。また、東京オリンピック・パラリンピックに向けた関連施設の建設の動きがいよいよ本格化してきますが、納入時期のピークは来期以降となるでしょう。いずれにしても、今期は、前期からの大きな環境の変化を想定することは難しいと思っています。

Q 2017年度の数値目標を教えてください。

A 営業利益については1年前倒しの達成を目指す

売上高の急速な回復は望めないものの、2016年度の営業利益が、第3期中期経営計画の2017年度の計画値に迫る実績となったことから、営業利益については、第3期中期経営計画の最終年度である2018年度計画を、1年前倒しで達成したいと考えています。原材料相場が上昇しており、バルブ事業にとっては利益の押し下げ要因となりますが、本年5月に実施した一部製品の価格改定(値上げ)の効果に加え、グローバル調達・内製化・生産性向上などによる製造コスト削減に取り組んでまいります。さらに、お客様が必要とする製品をいち早く開発し市場に投入するなど、グループ一丸となって営業利益100億円を目指してまいります。

Q 最後に、株主の皆様メッセージをお願いします。

A 企業価値の向上を目指して

当期末の配当金につきましては、当初公表の通り1株につき7円とさせていただきます。中間配当として6円の配当を実施しておりますので、年間配当額は1株当たり13円(前期と同額)となります。また、配当金に加えて、株主様への利益還元として、2016年6月から7月にかけて229万85百株の自己株式を取得。さらに、政策保有株式の売却により取得した資金を原資に、2017年2月には500万株(取得価額の上限35億円)の自己株式の取得を決定し、当期中に318万8百株の取得を完了しました。これにより、当期の連結総還元性向は92.5%となりました。

今後も、企業価値の持続的な向上を目指し、ゆたかな社会づくりに貢献してまいりる所存ですので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第3期中期経営計画(2016~2018年度)の数値目標

| | 2016年度 | | 2017年度 | | 2018年度 |
|-----------------|--------------------------|-----------|--------------------------|---------------------|--------------------------|
| | 第3期中期経営計画 (2016年5月公表) | 実績 | 第3期中期経営計画 (2016年5月公表) | 経営計画 (2017年5月公表) | 第3期中期経営計画 (2016年5月公表) |
| 売上高 | ▶ 1,115億円 | ▶ 1,141億円 | ▶ 1,150億円 | ▶ 1,170億円 | ▶ 1,200億円 |
| 営業利益 | ▶ 80億円 | ▶ 89億円 | ▶ 90億円 | ▶ 100億円 | ▶ 100億円 |
| 経常利益 | ▶ 77億円 | ▶ 87億円 | ▶ 87億円 | ▶ 97億円 | ▶ 97億円 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | ▶ 50億円 | ▶ 54億円 | ▶ 57億円 | ▶ 63億円 | ▶ 63億円 |
| 営業利益率 | ▶ 7.2% | ▶ 7.8% | ▶ 7.8% | ▶ 8.5% | ▶ 8.3% |
| 海外売上高比率 | ▶ 31.8% | ▶ 29.7% | ▶ 32.7% | ▶ 29.1% | ▶ 34.2% |
| ROE | ▶ 6.6% | ▶ 7.3% | ▶ 7.2% | ▶ 8.5% | ▶ 7.7% |
| 自己資本比率 | ▶ 63.9% | ▶ 61.9% | ▶ 64.7% | ▶ 64.1% | ▶ 64.0% |

セグメント別売上高

| | | | | | |
|-------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| バルブ事業 | ▶ 920億円 | ▶ 917億円 | ▶ 950億円 | ▶ 940億円 | ▶ 1,000億円 |
| 伸銅品事業 | ▶ 164億円 | ▶ 193億円 | ▶ 165億円 | ▶ 200億円 | ▶ 165億円 |
| その他 | ▶ 31億円 | ▶ 30億円 | ▶ 35億円 | ▶ 30億円 | ▶ 35億円 |

セグメント別営業利益

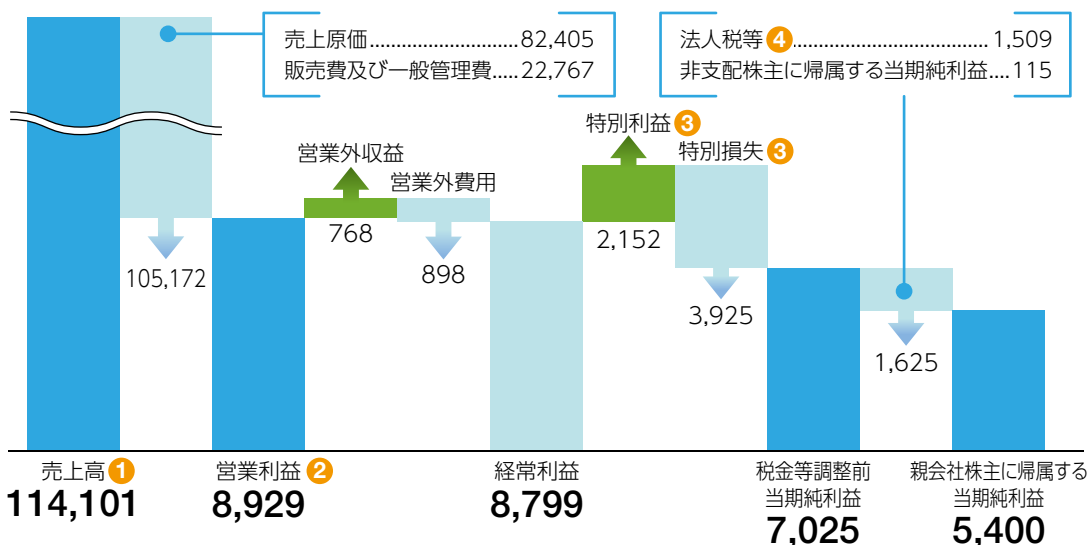
| | | | | | |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| バルブ事業 | ▶ 110億円 | ▶ 114億円 | ▶ 119億円 | ▶ 130億円 | ▶ 131億円 |
| 伸銅品事業 | ▶ 2億円 | ▶ 8億円 | ▶ 3億円 | ▶ 4億円 | ▶ 1億円 |
| その他 | ▶ 1億円 | ▶ 0.5億円 | ▶ 1億円 | ▶ 0.5億円 | ▶ 1億円 |

業績ハイライト

連結損益計算書の概要

当期 (2016年4月1日~2017年3月31日)

(単位: 百万円)



Point ①

売上高
パルプ事業において、国内は増収となりましたが、海外は北米及びアジアで大幅な減収となった他、伸銅品事業において販売価格の低下及び販売量の減少により減収となり、前期比2.7%減の1,141億1百万円となりました。

Point ②

営業利益
製造コストの削減、原材料価格が低位で推移したことなどにより、前期比23.2%増の89億29百万円となりました。

Point ③

特別利益・特別損失
政策保有株式の一部を売却し、投資有価証券売却益20億97百万円を計上する一方、財務内容の健全化を目的として本社不動産に信託受益権の設定・譲渡を行うなど、37億56百万円の減損損失を計上しました。

Point ④

法人税等
2014年3月期において計上した移転価格税制に基づく調査による更正額7億16百万円について、日米相互協議の終了を受け、6億22百万円の還付を受けました。

Point ⑤

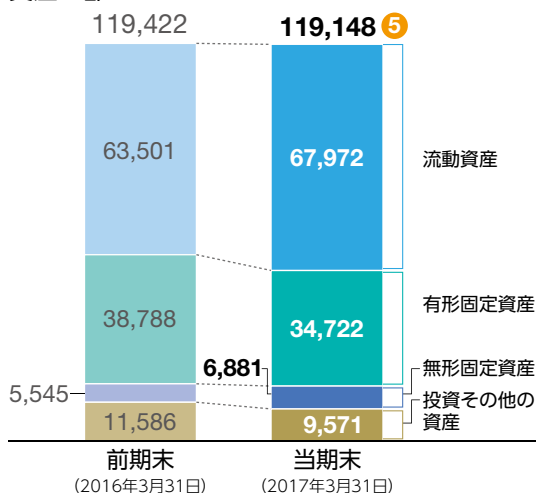
総資産
現金及び預金が増加した他、IT投資などにより無形固定資産が増加した一方、本社不動産の売却及び政策保有株式の売却などにより、前期末に比べ2億73百万円減少しました。

Point ⑥

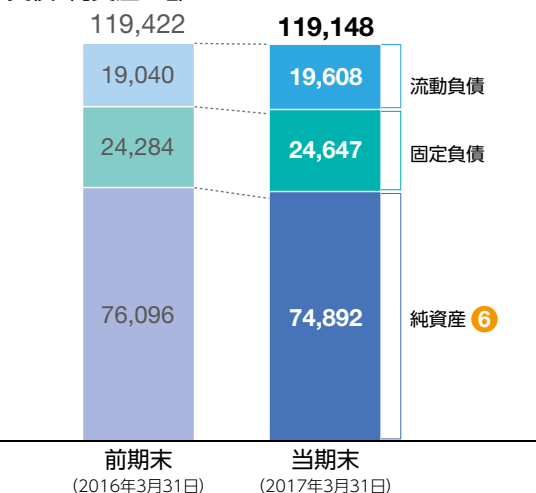
純資産
親会社株主に帰属する当期純利益は54億円となりましたが、自己株式の取得を積極的に行った他、配当金の支払い、為替換算調整勘定の減少などにより、前期末に比べ12億4百万円減少しました。

連結貸借対照表の概要

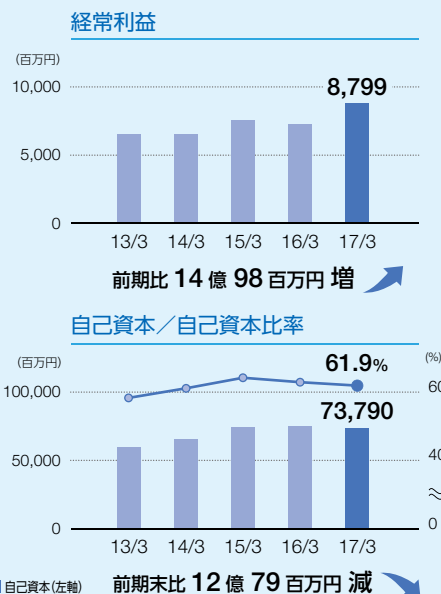
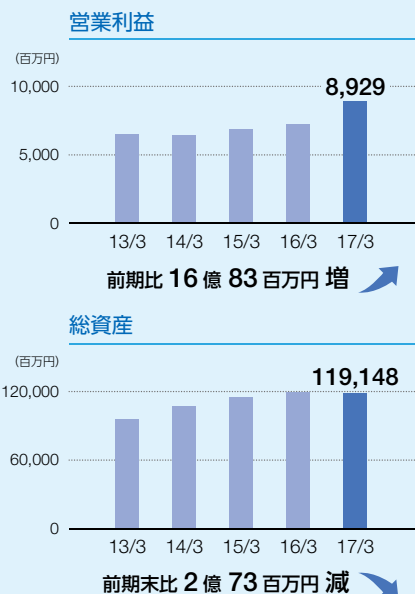
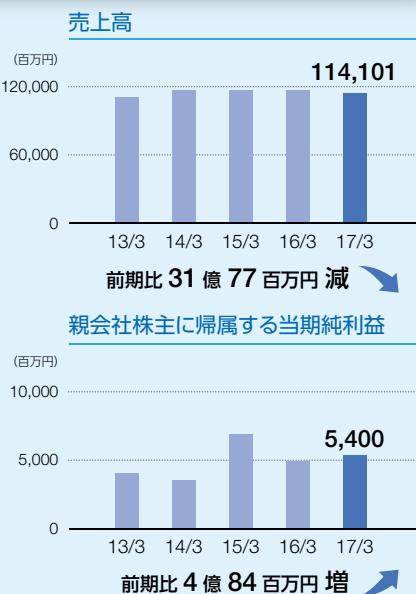
資産の部



負債・純資産の部



主要連結財務指標の推移

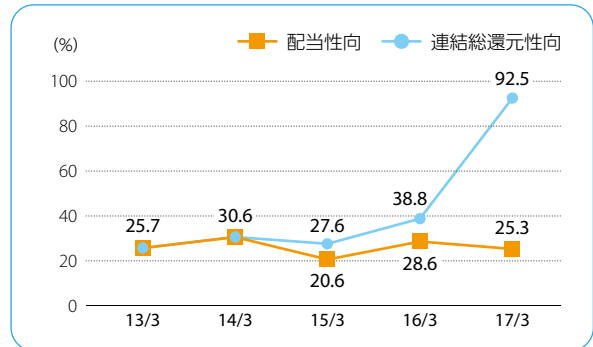


※本株主通信中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

自己株式の取得

第3期中期経営計画の基本方針に従い、2016年6月から7月にかけて、229万85百株の自己株式を取得。さらに、2017年2月から4月にかけて、政策保有株式の売却により取得した資金を原資に454万80百株の自己株式を取得しました(2016年度中の取得は318万8百株)。

キットでは、現金配当による連結配当性向の目標25%に加え、連結総還元性向の目標を従来の3分の1前後から、自己株式の取得にさらに積極的に取り組み、株主の皆様への利益還元をより一層充実させてまいります。



キットエスシーティー システム製品専用工場を新設

海外市場を中心とした半導体製造工場の設備投資の活況により「システム製品(バルブ・継手に、配管部材や制御機器類を組み合わせた製品)」の需要が高まっています。キットグループの半導体事業を担うキットエスシーティーの新田SC工場に、「システム製品」の専用工場を新たに建設、2017年6月稼働を目指しています。設計から製造までをワンストップで対応できる強みを活かせる本製品のビジネス拡大を目指してまいります。



新工場完成イメージ図



「システム製品」の一例

| | |
|------|------------------------------|
| 所在地 | 群馬県太田市新田嘉祢町150-2(新田SC工場 敷地内) |
| 生産品目 | 半導体・FPD製造プロセス用システム製品 |
| 総投資額 | 約5億円 |

社会貢献活動

IPCアルペンスキーワールドカップ白馬大会に協賛



キットは、特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟 パラアルペンスキーチームを応援しています。2017年3月5日から7日まで日本障害者スキー連盟が主催する「IPC※アルペンスキーワールドカップ白馬」が、長野県白馬村にある八方尾根スキー場において開催されました。

パラアルペンスキーチームからは6人の選手が出場し、熱い戦いが繰り広げられました。村岡桃佳選手と森井 大輝選手がスーパー大回転の種目で金メダルを獲得した他、他の選手たちも大健闘しました。

キットは、本大会のオフィシャルスポンサーとして協賛。ゴール後のフィニッシュエリアや表彰式で選手の背景を飾るセレモニーウォール等に社名ロゴを表示し、大会を盛り上げました。

※IPC: International Paralympic Committee (国際パラリンピック委員会)

JR東京駅・JR海浜幕張駅に広告看板を設置

2016年12月にキッツ本社の最寄駅であるJR京葉線 海浜幕張駅の構内に、また、2017年1月にJR東京駅の京八通路(京葉線へ向かう際の通路)に広告看板を設置しました。京葉線は、東京都心とキッツ本社のある幕張新都心を結ぶアクセス路線であり、沿線には東京ディズニーリゾート、幕張メッセやZOZOマリンスタジアムなどの大型集客施設が多数あります。京八通路は、在来線や新幹線から京葉線に向かう経路であり、通勤客や学生などが毎日利用する他、観光客、周辺地域のホテルへの宿泊客など、たくさんの方が利用します。

キッツは、2016年4月にJR中央線 上諏訪駅、同6月に東京ドーム、そして今回の東京駅、海浜幕張駅と、事業所地域を中心に広告看板を設置してまいりました。今後も、キッツグループの知名度向上に向けた取り組みを継続してまいります。



JR東京駅構内 京八通路



JR京葉線 海浜幕張駅構内

中国に複合機能拠点を設立

グループ会社であるKITZ Corporation of Shanghai (中国)は、上海市、北京市、深圳市、重慶市に拠点をもち、販売活動を展開しています。中国国内でのさらなる拡販のため、上海市の北西に位置する江蘇省常熟市に、新製品開発、生産、品質保証、技術サービス、物流サービスなどを行う複合機能拠点(分公司)を設立し、2017年1月から稼働を開始しました。

今後も、海外拠点のさらなる充実・強化を図ってまいります。



株主優待のご案内

キッツは株主様からのご支援に対する感謝の気持ちを込めて、株主優待を実施しています(3月末現在、ご所有株式数1,000株以上)。

● オリジナルクオカード

- 1,000株以上 1,000円券 1枚
- 2,000株以上 2,000円券 1枚
- 3,000株以上 3,000円券 1枚



● グループ会社優待券

キッツグループの商品・サービスより、家庭用浄水器及びホテルの各種優待券をご用意しています。



家庭用浄水器「ピュリフリー」

● 北澤美術館

ガラス工芸品カレンダー 1部

● 長期保有株主優待

2017年3月末現在、5年以上かつ1,000株以上ご所有の株主様につきましては、従来からの優待に加え、北澤美術館 日本画カレンダーの大判サイズまたは卓上サイズ、「平成28年熊本地震災害義援金」への寄付よりいずれか1点お選びいただけます。



2017年版
カレンダー

● 新規株主様への優待

9月末現在、新規で1,000株以上ご所有の株主様に、北澤美術館 ガラス工芸品カレンダーを1部お送りいたします。

株式の状況

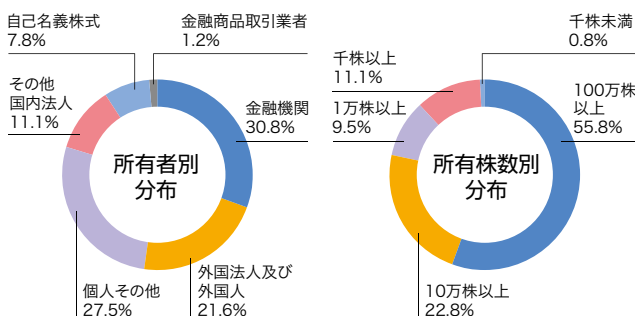
- 発行可能株式総数 400,000,000株
- 発行済株式の総数 101,734,647株

(注) 上記の発行済株式の総数には、当社が2017年3月31日に保有する自己株式8,661,864株を含めておりません。

- 株主数 9,715名
- 大株主(上位10位)

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|-------------------------------------|----------|---------|
| | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 9,547 | 9.38 |
| CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY | 4,665 | 4.59 |
| 日本生命保険相互会社 | 4,374 | 4.30 |
| 北沢会持株会 | 4,157 | 4.09 |
| 公益財団法人北澤育英会 | 3,411 | 3.35 |
| 住友生命保険相互会社 | 3,208 | 3.15 |
| キッツ取引先持株会 | 3,099 | 3.05 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 | 2,838 | 2.79 |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY | 2,828 | 2.78 |
| 株式会社みずほ銀行 | 2,553 | 2.51 |

- (注) 1. 当社は、2017年3月31日現在、自己株式8,661千株を保有しており、上記大株主から除外しております。また、持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いて計算しております。なお、当社は「役員報酬BIP信託」を採用しておりますが、日本マスタートラスト信託銀行(株)が当社株式344千株を保有しておりますが、当該自己株式には含めておりません。
2. 上記の持株数には、信託業務に係る株式を次の通り含んでおります。
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 9,547千株
日本マスタートラスト信託銀行(株) 2,838千株
3. 日本生命保険(相)の持株数には、特別勘定年金口71千株を含んでおります。
4. 住友生命保険(相)の持株数には、変額口35千株及び特別勘定23千株を含んでおります。



期末配当金のお支払について

2017年5月30日開催の当社取締役会におきまして、第103期の期末配当金について、以下の通り決議されております。

期末配当金:1株につき 金7円

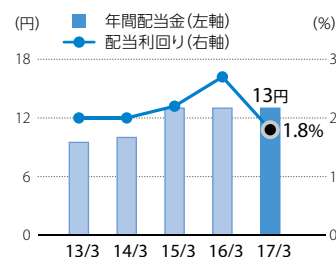
(中間配当金として2016年12月に1株につき6円の配当を実施しておりますので、年間の配当金は1株につき13円となります)

効力発生日ならびに支払開始日:2017年6月5日(月)

同封の「第103期期末配当金領収書」により、払渡しの期間(2017年6月5日~7月6日)内に最寄りのゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、銀行等口座振込をご指定の方には、「第103期期末配当金計算書」及び「配当金振込先のご確認について」の記載をご確認いただけますよう、お願い申し上げます。

配当方針

キッツは、配当金を、株主の皆様への利益還元として経営上の重要課題と位置付けており、配当性向につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益の25%前後を望ましい水準と考えています。また、連結総還元性向については、従来、親会社株主に帰属する当期純利益の3分の1前後を目指してまいりましたが、第3期中期経営計画において、自己株式の取得にさらに積極的に取り組み、株主の皆様への利益還元をより一層充実させる方針を掲げております。



株主の皆様のご意見が経営に反映されます

株主総会に提案された議案について、株主の皆様にご賛成や反対の意思表示をしていただくことを「議決権の行使」といいます。株主の皆様がこの権利を行使することにより、当社の経営に参画していただくこととなります。議決権を行使いただくには、以下の3つの方法がございます。

- ①株主総会に出席し、提案された議案に対する賛否を表明する。
- ②「議決権行使書用紙」に各議案に対する賛否を表示のうえ、返信する。
- ③「議決権行使サイト」(<http://www.evote.jp/>)にアクセスし、賛否を入力する。

株主メモ

| | |
|-------------|---|
| 事業年度 | 4月1日~翌年3月31日 |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 基準日 | 定時株主総会議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。 |
| 公告掲載方法 | 電子公告 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL (http://www.kitz.co.jp/) |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-7111(通話料無料) |

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

会社概要 (2017年3月31日現在)

| | |
|-------|--|
| 商号 | 株式会社キッツ |
| 本社 | 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1 TEL (043)299-0111(大代表) |
| 代表者 | 代表取締役社長 堀田 康之 |
| 資本金 | 21,207,084,670円 |
| 設立年月日 | 1951年1月26日 |
| 従業員数 | (単体)1,258名 (連結)4,597名 |

ウェブサイトのご案内

企業情報の他、決算情報や財務データなどを掲載しています。



<http://www.kitz.co.jp/>

